

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

推進校実施報告書

- 1 学校名：岐阜県土岐市立泉中学校
- 2 実施日時：2018（平成 30）年 10 月 23 日（火）14:10-16:10
- 3 対象：全校生徒（約 400 名）および保護者（約 10 名）
- 4 実践形態：パラリンピアンによる講演
- 5 派遣パラリンピアン：田中 照代さん

（車いす陸上 アトランタパラリンピック 800m T2 クラス 金メダル
シドニーパラリンピック 200m・800m・1500m T2 クラス 銀メダル
北京パラリンピック 100m T2 クラス 銅メダル
ロンドンパラリンピック 100m・200m T2 クラス 入賞）

6 授業内容：講演、実技

2018（平成 30）年 10 月 23 日（火）に、土岐市立泉中学校にて、車いす陸上の田中照代さんを講師としてお招きしたオリンピック・パラリンピック教育実践が行われました。実践当日は、車いす陸上 T2 クラスの 100m、200m、800m および 1500m で、アトランタ大会、シドニー大会、北京大会、ならびにロンドン大会で金、銀、銅メダルを獲得された田中さんによる講演が行われました。その後、生徒達が実際のレーサー（競技用車いす）に乗る場面や、質疑応答の時間、また、これまでに田中さんが獲得されたメダルに触れる場面も設けられ、充実した実践となりました。

「私の生き方」というテーマで行われた講演では、冒頭に、田中さんが出場したレースの映像が紹介されました。中学校時代に遭った交通事故によって頸椎を損傷し、歩行ができなくなるとともに、現在も四肢に麻痺が残っているとのこと。事故後、はじめは車いすバスケットボールに挑戦したものの、団体種目で人に合わせることは苦手と気づき、陸上競技への移行し、競技生活は 32 年目、来年には還暦を迎えるとお話がありました。競技生活を続けてくる中で常に念頭にあったのは、「自分自身に負けたくない、負けたら何もかもがなくなってしまう」という気持ちだったといいます。

田中さんは講演の中で、何か壁にぶつかったときには、そこでもう少し踏ん張れるかどうか大切にすることを伝えていました。そして、生徒たちも 1 度は経験しているであろう、一生懸命やったときに結果がついてきた経験や、目標があったから頑張れたという経験は、スポーツの場合でも同じだということ、そして、常に前を見て精一杯やってほしいということを述べられました。加えて、いじめに遭い、死のうと思ったことがあったものの、「どんな身体であろうと生きてくれるだけで恩返し」と友人に言われたひとことに救われたというご自身のエピソードを話されました。そして、「できないことは隠すのではなく、さらけ出して、努力してできることをやろう。できないことは助けを願ひしよう」と、普段から考えているということをお話しされました。講演の最後には、相手の心が読めない、あるいは、思いやりのない「心の障害者」にはならないで欲しい、そし

て、何かに負けたり失敗しても良いから、その時にはまたレールを敷きなおして前に進んでほしいとメッセージを伝えていました。

質疑応答の時間では、生徒から「トレーニング後や大会後の疲労はどのように取っているか」という質問が挙がり、ドーピング検査等への配慮から食事やサプリメントで対処していると答えていました。また、レーサーと呼ばれる競技用の車いすへの乗車体験の時間には、多くの生徒が積極的に参加する様子が見受けられました。実際に体験した生徒からは、「恐いかと思っていたけど、面白かった」等の感想が聞かれ、また、田中さんの身体に合わせて作られたレーサーの緻密な寸法や軽さに、驚きの声が上がっていました。田中さんが実際に獲得されたメダルの中には、視覚障害の選手のために点字が刻まれたメダルや、音のするメダルがあると紹介され、数名の生徒が実際にそれらのメダルを首にかけ、全校生徒に見せて回る場面もありました。生徒代表からは、「田中さんのように今を大切に、前向きに生きたい」とお礼の言葉が述べられ、田中さんのメッセージがしっかり生徒達に伝わっていた様子でした。

オリンピックやパラリンピックについてのビデオを用いた事前指導が行われていたこともあり、どの生徒も興味を持って話を聞いていた姿が印象的でした。

7 授業の様子



【 講演の様子① 】



【 講演の様子② 】



【 質疑応答 】



【 レーサー乗車体験の様子 】



【 メダルに触れている様子 】



【 生徒代表からの言葉 】